

# 教育史だより



第12号（平成27年1月30日更新）

## 生徒自治会（生徒会）と模擬議会

本県では、シチズンシップ教育の一環として、平成22年7月の参議院議員選挙の時期にすべての県立高校で模擬投票を実施しました。模擬議会や模擬裁判などの取組も行っている学校もあります。

こうしたシチズンシップ教育の取組は近年のものですが、終戦直後の昭和20年代初頭にも生徒自治の観点から模擬議会などの取組が行われていた時期がありました。昭和21年頃から生徒自治会（生徒会）が形成され、「教育民主化」を進めるGHQの指導もあり、昭和22年から23年頃にかけて全国的に普及していきます。本県では、昭和21年12月、軍政部の教育課長となったマックマナスが、横浜市内の旧制横浜第二中（現、横浜翠嵐高校）、旧制横浜第一高女（現、横浜平沼高校）、横浜第二高女（現、横浜立野高校）などに働きかけて生徒自治会づくりを指示しました。

これをきっかけに県内各校に生徒自治会が誕生します。しかし、学校側の関与が大きい戦前の「校友会」を改称しただけの形式的な設置にとどまる傾向が強く、マックマナスは、生徒自治会強化のための試みとして、生徒の模擬選挙や模擬議会を奨励しました。

昭和22年4月に生徒自治会が設置された横浜第一高女（現、横浜平沼高校）は、同年7月に第一高女自治会規約を制定し、9月には生徒自治会役員の模擬選挙を行いました。さらに11月には、GHQ教育課の指導により横浜市の「市民の日」に男女中等学校合同で、実際の市議会場で「模擬市会」を行いました。

他にも湘南高校では、任命制だった旧級長制を公選化する際にマックマナスの指示で模擬選挙を行い、平塚江南高校でも「校内模擬市議会議員選挙」を行うなど、実社会の「議会」経験学習が盛んに行われました。このような模擬選挙や模擬議会の経験は、生徒自治会形成にとって重要な意味を持っていました。

GHQ主導の下でつくられたとはいえ、これらの行事を主催したのは各校の生徒自治会の連合組織である「自治連合会」の生徒たちであるところが、今日の模擬議会との違いと言えるでしょう。

短期間に発展した生徒自治会は昭和 24～25 年にかけて、活動の行き過ぎを懸念した GHQ や文部省の指導によりブレーキがかけられ、自治連合会も解散します。「生徒自治会」の名称は、昭和 24 年頃から今日のように「生徒会」と改称する学校が現れてきます。

<参考資料>

喜多明人 1996 「戦後日本における生徒自治会の形成と意義—神奈川県为学校史を中心に」『子どもの参加の権利—〈市民としての子ども〉と権利条約』所収

神奈川県立総合教育センター 2010 『神奈川軍政部月例活動報告書(教育及び民間情報)』  
(増補改訂版)

問合せ先

神奈川県立総合教育センター  
学校教育支援課 学校支援班  
(0466)81-1659